

天下の暴言 PART. 1

宗教と警備員

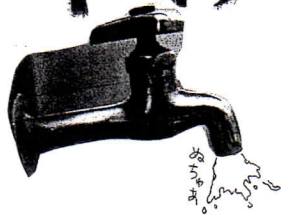
夜の暗い本キャンを一人で歩いていると必ずと言ってよいほど「スミマセン」と声をかけられる。そう、カルト宗教の勧誘だ。俺がそんなに人生に迷っているように見えるのが、彼らは必ずと言ってよいほど韓国からの留学生であると名乗り、コンサートなどに誘ってくる。

俺は彼らが怖い。女性に声をかけられるならまだしも、男の野太い声で「スミマセン！」とウタコトで声をかけられると体が縮みあがってしまう。確かに信仰は自由であるが、他人に恐怖を抱かせる勧誘はいけないうら。そもそもそんなに良い宗教だったら勧誘などしなくても勝手に信者は増えるのではないか。大学当局も学生のやることに対してはいろいろと規制するくせに宗教の勧誘に対しては何も規制しようとはしない。おかしいではないか。警備員も隈飲みをしている学生たちを追いかう前に宗教の奴らをキャンパスから追い出すのが先にすべきことではないか。

そういえば、警備員が宗教の勧誘を受けているのを見たことがない。さすがに警備員には手出しできないよらだ。そこで...

警備員の制服を売ってくれ!

警備員の青い制服を着て通学するのだ。そうすれば宗教の勧誘もろけなくて済むし、警備員にカモフラージュすることで本物の警備員の目を欺くことができ、隈飲みでもなんでもセリ放題だ! 加えて本物の警備員に、「大変でしょうから代わりに大学の警備やりますよ」と言っさりげなく仕事をうばい、学生自ら大学を警備する。そうすることで本物の「学生自治」を行うことができ、それはすなわち「学の独立」につながることになるだろう。



油とワセメン

早稲田界隈のメシ屋はどこも油の海に沈んでいる。牛丼を頼んだら油まみれ。定食を頼んでも油まみれ。弁当に逃げても容器ごと油まみれだ。満腹感さえあれば良いという阿呆な学生が多いせいで、何を喰っても胃もたれがストーキングしてくる。この町には味覚オンチレはいないのか。必さけるな!

油が出る蛇口を配備しろ!!

香川じゃ蛇口からガシが出る。京都や静岡からは茶が出る。ならば早稲田は油を出せばいい。油が出る蛇口を配備し、セルフサービスにすれば、油フリークの連中は好きなだけメシに油をかけて腹を満たすことができ。そうすればレシビそのものに油っ気もなくとも容は寄ってくるはずだ。そして一方で一般人はごく普通のメシにありつける。この蛇口を駆使すれば、どんな牛丼も三品に、どんな定食もオートボクになるだろう。ワセメンのたぬき丼、あれはほとんど油だ。あれが喰えるような奴は、米に油を付けて喰ってればいい。連中は味覚オンチだから、きちんとした油を用意する必要もない。中国ではドブの残飯から油を取り出すぞうだ。ならば

ローラーのケロから油を作れ!!

吐いた油をまた喰って、また吐いて。かくして早大生は壮大な生態系の一部となるのだ。